

エコアクション21

環境経営レポート

第49期(2022年度)

対象期間2021年10月～2022年9月

(作成日2022年12月19日)



認証・登録番号 0001339

ミヤマ精工株式会社



目次

1.組織概要

2対象範囲・実施体制

3.環境経営方針

4.環境経営目標

5.環境経営計画

6.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果及び次年度の取組

6-1 環境経営目標の実績・取組結果及び次年度の取組

6-2 環境経営計画の取組結果と評価及び次年度の取組

7.実績と次年度の目標

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

9.教育・訓練実施結果及び概要

10.代表者による全体評価と見直し・指示

1.組織の概要

- 会社名 ミヤマ精工株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 南澤 文明
- 所在地 本社工場 長野県千曲市大字雨宮2358-1
- 連絡先 TEL 026-272-8080 (代)
- FAX 026-272-7878

○環境保全責任者及び担当者

- 最高責任者 代表取締役社長 南澤 文明
- 環境管理責任者 取締役総務部長 南澤 哲子

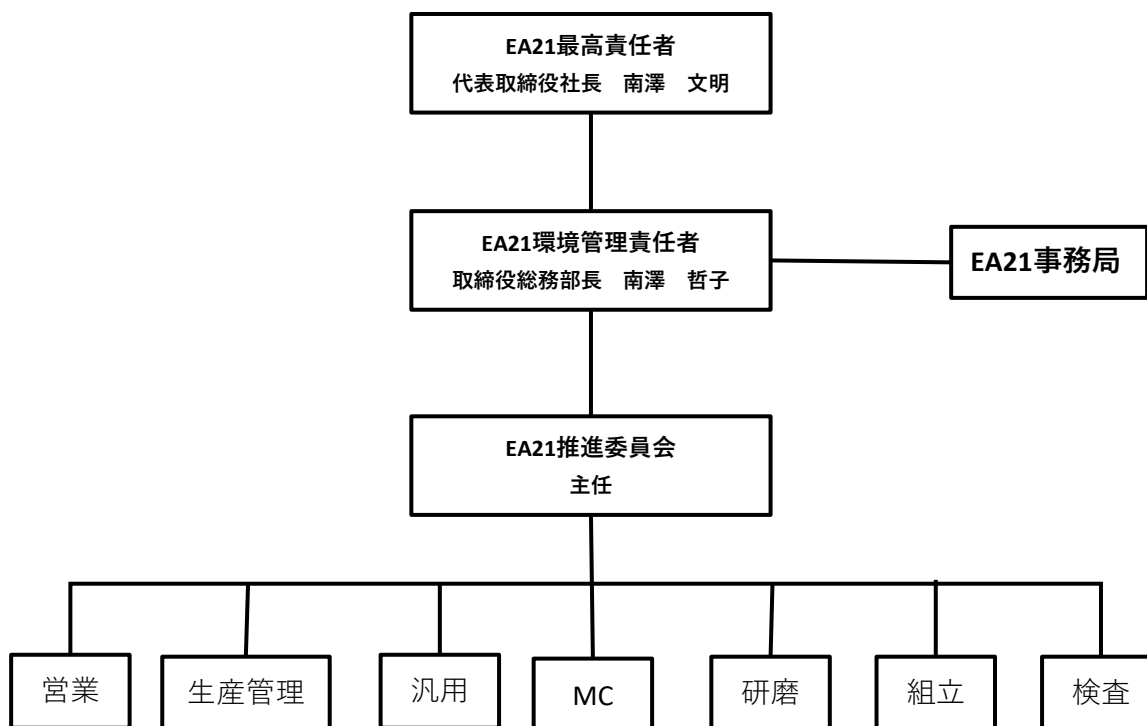
- 事業内容 各種製造装置部品の製造、組立及び加工販売

○事業規模

(2022年9月30日現在)

	2021年度	2022年度
売上	112千万円	122千万円
生産数	23,361個	22,667個
従業員数	52人	53人
延べ床面積	2086.55m ²	2086.55m ²

2.対象範囲・実施体制



最高責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営システムの実施に必要な、人員、設備、費用を準備 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書・環境活動レポートを承認 ・問題点の発見、是正、予防処置の確認及び評価 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施及び運用管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票の承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制を従業員に周知 ・全従業員に対する教育・訓練の実施 ・環境外部コミュニケーションの窓口 ・問題点の発見、是正・予防処置の確認及び評価、代表者への報告 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境経営レポートの作成 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境活動の実績データ等の集計 ・環境経営システムの実施 ・環境経営方針の周知 ・関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境管理責任者への報告 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連法規の遵守状況の確認 ・文書・記録の管理
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3.環境経営方針

我々人類の生活する地球環境の温暖化は、現存する地球の生命体すべてにおいて将来にわたり環境保全上の大きな支障となることは、環境基本法やエコアクション21の基本理念を学ぶ事により理解できることです。よって、当社は環境保全を事業活動の重要課題と認識し、自然環境が豊富なこの信州長野の地を次の世代に継承するべく、全社員が地球環境と地域社会の環境に配慮して発展して行くことを目指します。

1. 人と地球に優しい事業活動を行い、環境負荷の低減に努める。
2. 環境に関する法規制や地域との協定を遵守し業界上部団体の指針に基づき活動する。
3. 当社が行う環境活動は、以下の項目とする。
 - 1) 工場、事務所等の省電力への取り組み
 - 2) 生産活動に伴う廃棄物、排出物の削減及び再利用の取り組み
 - 3) 製品運搬等、車両の燃料使用量削減の取り組み
 - 4) 使用上水道の削減（工業用水の使用無し）
 - 5) グリーン調達の推進と、製造工程での環境を配慮した取り組み
4. 本方針に基づき、環境目標を定め環境活動計画に沿って全社員が一丸となって活動し展開を図ると共に、定期的に見直しを実施する。
5. 本活動を全社員に周知徹底すると共に、本活動を示した環境経営レポートを作成し社外に公開する。

制定 平成17年10月1日

改訂 平成22年10月1日

ミヤマ精工株式会社

代表取締役社長 南澤文明

4.環境経営目標

- ①エネルギー投入量の目標値は前期実績に対して1%の削減を目標とする。
- ②水は製品の洗浄及び機械油が水溶性の為、水で薄めて使用する為、使用量が増加傾向であるので各箇所に節水のポスターなどを提示し、各自細目に止め、より一層の節水に心がけるように努力する。
- ③ガスは、加工品の洗浄で多量にお湯を使うので使用方法の徹底をする。
- ④廃棄物は当社の製造品が日々変わるため、精度の高い分別をし、リサイクル率を高め、無駄のない材料取りをするように生産管理との連携を組み、日々努力することを目標とする。共に、マニフェストの確認及び把握するように努力する。廃油に関しては油の成分表及び安全データシートを仕入れ先より提供してもらい、社員全員で把握できるようにする。それによりいっそうの環境への知識を深めるようにする。
- ⑤CO₂総排出量を全活動を通じての削減を推進する。

環境経営目標

項目	内容	第47期(2020年度)	第48期(2021年度)	第49期(2022年度)
エネルギー投入量	電気	364619	277518	300842
	自動車燃料	49268	48375	42153
	ガス (LPG)	442	550	525
	ガス (LNG)	42	0	0
CO ₂ 総排出量	Kg-CO ₂	414371	326443	343520
産業廃棄物	t	58.2	70.6	66.8
一般廃棄物	t	1.49	1.07	1.08
水	m ³	617	628	605

②四半期ごとの目標

弊社の場合、受注生産の為、長期計画は立てられない状態である。従って長期計画を立てることは、困難であるが、CO2排出量四半期ごとにまとめ、目標を立ててみた。

項目	内容	項目	2021.10～12月	2022.1～3月	2022.4～6月	2022.7～9月
①エネルギー量	電気 (kwh)	目標	183880	148186	233122	144897
		CO2排出量	90030	76019	116561	72969
		実績	149437	233112	148634	189491
		CO2排出量	68125	105774	68499	86737
		評価	○	×	○	×
	ガソリン (ℓ)	目標	2114	2254	1911	2001
		CO2排出量	4904	5229	4432	4641
		実績	2277	1930	2021	2047
		CO2排出量	5282	4477	4688	4748
		評価	×	○	×	×
	軽油 (ℓ)	目標	2080	2093	1819	2389
		CO2排出量	5367	5399	4694	6162
		実績	2114	1837	2413	1836
		CO2排出量	5454	4741	6224	4737
		評価	×	○	×	○
	灯油 (ℓ)	目標	0	0	0	0
		CO2排出量	0	0	0	0
		実績	0	750.6	0	0
		CO2排出量	0	1869	0	0
		評価				
	ガス(LPG)(kg)	目標	33	44	59	46
		CO2排出量	97	131	177	138
		実績	44	60	46	28
		CO2排出量	131	179	138	84
評価		×	×	○	○	
ガス(LNG)(kg)	目標	0	0	0	0	
	CO2排出量	0	0	0	0	
	実績	0	0	0	0	
	CO2排出量	0	0	0	0	
	評価	今期は、使用量なしの為評価しない				

1)受注生産の関係上、生産数及び短納期に対応の為の時間外の稼働によりエネルギー使用量も大幅に変わってくる。従って加工方法のより一層の工夫努力が必要と思われる。四半期ごとに1%削減を目標にした。

2) 燃料使用量は受注内容により外注が多かったり、内部加工が増えたりするので常に、節約及び車両の運行工程を工夫する。

3) 灯油に関しては、暖房用として使用するだけであり季節ものであるので前月使用量があっても目標値は0である。

5.環境経営計画

目標達成のための経営計画	
エネルギー	○電気 <ul style="list-style-type: none"> ・電灯の節電、OA機器の電力削減に心がける ・エアー漏れのチェックをする ・室温管理の担当がチェックし空調の無駄遣いを抑制する <ul style="list-style-type: none"> ・工場現場：夏季26℃ 冬季20℃（検査室 夏季22℃ 冬季20℃） ・事務所及び食堂 夏季28℃ 冬季20℃ ・エアコンのフィルター清掃など3カ月に1回点検を各部署において行う ・毎月1日、10日、15日はノー残業デーとしているので、一斉退社を徹底する
	○ガソリン、軽油 <ul style="list-style-type: none"> ・社用車の暖機運転の禁止 ・不必要なアイドリングの禁止 ・車両の定期的な点検及び省エネ運転の実行 ・社用車の配車の工夫
	○灯油 <ul style="list-style-type: none"> ・冬季の早朝などストーブ使用時の温度設定のチェック <ul style="list-style-type: none"> ・担当が空調と併わせて管理を行う
	○ガス <ul style="list-style-type: none"> ・コンロ及び瞬間湯沸かし器の効率の良い使用方法を工夫する ・アルゴンガスについても効率の良い使用方法を工夫する
	○上水道 <ul style="list-style-type: none"> ・節水に努め環境マネジメントの向上を意識付けする ・切削油の管理を徹底し、入替え等が適切にできるようにする
廃棄物	○切粉（スチール、アルミ、ステンレス） <ul style="list-style-type: none"> ・各種金属の切粉が排出されるが、精度ある分別をしてリサイクルする
	○紙 <ul style="list-style-type: none"> ・普通紙、雑誌、新聞、ダンボール紙などの分別を徹底する
	○プラスチック <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品なのでゴミとして出さぬように注意して分別する
	○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶、スチール缶、ペットボトルは自動販売機設置業者の管理である為、業者に迷惑の掛かるような行為は慎むこと ・使用後のエンドミルは、ハイス、超硬、チップに分別し、リサイクルに回す
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当者は常に環境意識を持ち、担当に関わる研修会に積極的に参加する ・各担当者は学び得た知識を有意義に発揮し全社に教育及び指導する ・各社員エコアクション21の目標を提示し、努力を促す ・月初めの朝礼で再度各社員に節約の自覚を促す ・5S委員会を通し、他社の見学及び活動を社員に紹介し、環境意識を強める
グリーン（達成）	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品はグリーン化された商品を優先して購入する ・消耗品はリサイクル品またはリサイクル化される物を優先して購入する ・生産管理及び製造工程で素材のムダ、工程のムダ等を考え、環境を意識した製造方法を推進する

6.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果

6-1環境経営目標の実績・取組結果

【環境経営目標の実績】

			第47期(2020年度)	第48期(2021年度)	第49期(2022年度)
電力によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	364619	277518	300842
		実績	280321	303881	329135
		評価	○	×	×
自動車燃料によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	49268	48375	42153
		実績	48862	42578	40351
		評価	○	○	○
ガス(LPG)(kg)によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	442	550	525
		実績	556	530	532
		評価	×	○	×
ガス(LNG)(kg)によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	42	0	0
		実績	0	0	0
		評価	○	○	○
上記CO ₂ 排出量合計	kg-CO ₂	目標	414371	326443	343520
		実績	329739	346989	370018
		評価	○	×	×
産業廃棄物	t	目標	58.2	70.6	66.8
		実績	71.4	67.4	80.6
		評価	×	○	×
一般廃棄物	t	目標	1.49	1.07	1.08
		実績	1.08	1.09	1.7
		評価	○	×	×
水	l	目標	617	628	605
		実績	634	611	629
		評価	×	○	×

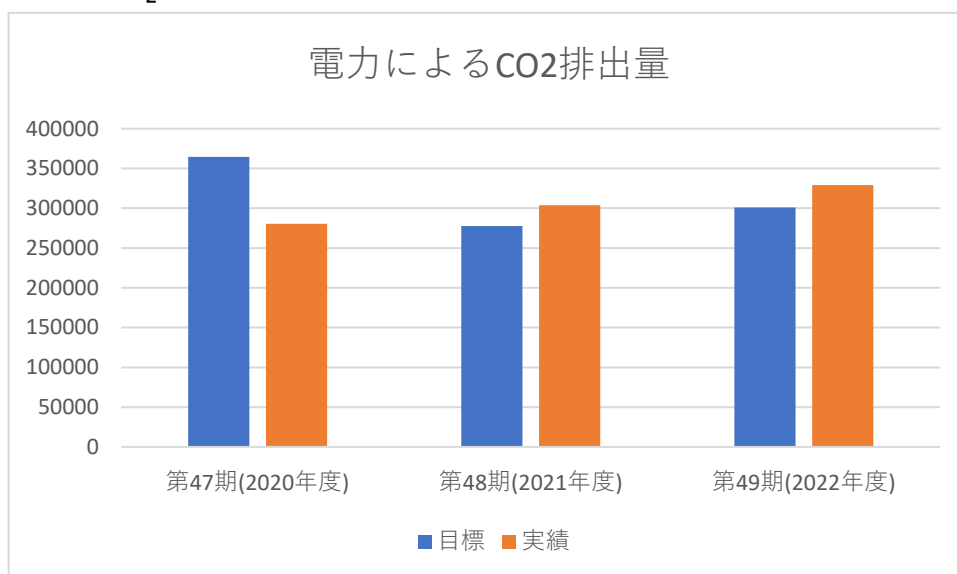
※購入電力の排出係数は、中部電力の2021年の0.449(kg-CO₂/kWh)及びソーラー日本の0.485(kg-CO₂/kWh)を使用。

※産業廃棄物には廃油も含まれ、再資源化されている量も含まれている値で示している。

※今回の産業廃棄物から切粉も数値として含むことにした。

6-1-1環境経営目標の取組結果及び次年度の取組

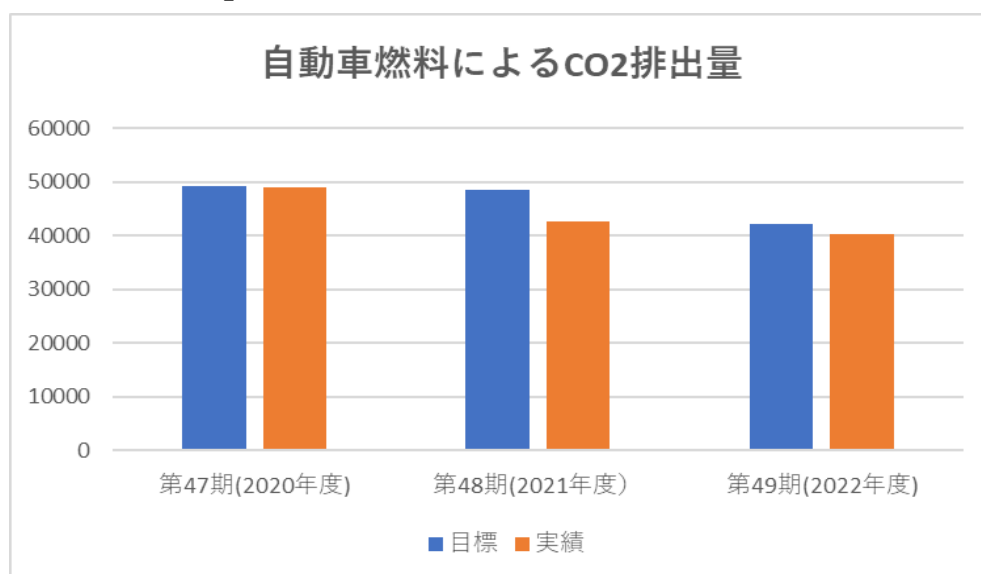
①電力によるCO₂排出量



○取組結果：今期は目標達成とはいかなかった。昨年より売上が上がっていること、SDGsの目標にも掲げている人員増員により機械稼働時間が増えたこと等が要因だと考えられる。

次年度の取組：来期も人員増員及び新組立工場の稼働により今期より排出量は増えてしまうと考えられるが、ムリ・ムダ・ムラのないように個人個人で工夫していく。

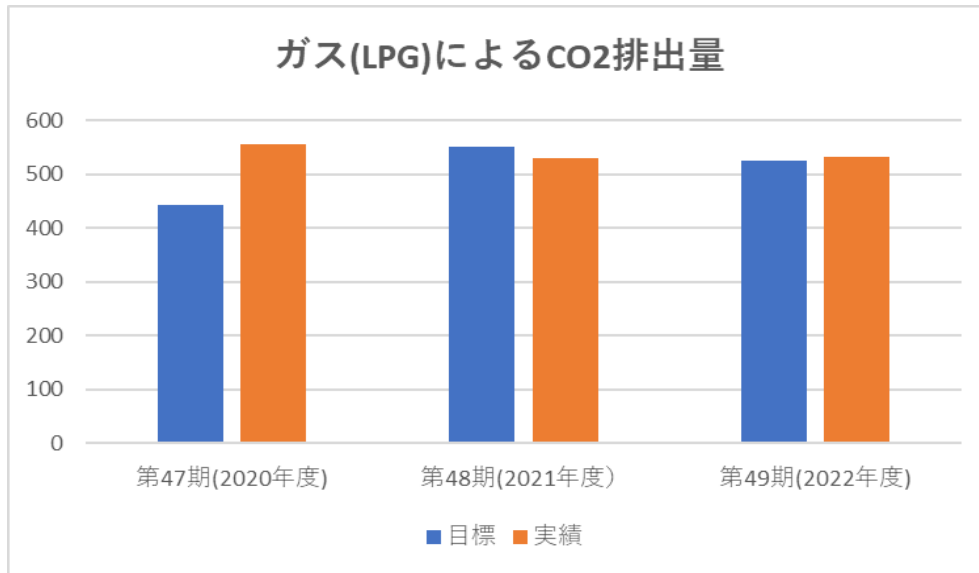
②自動車燃料によるCO₂排出量



○取組結果：今期も目標達成することが出来た。運転管理表を付けるようになり、無理のない走行、無駄のない走行ルート、ムラのないアクセル・ブレーキ操作が定着してきたと考えられる。

次年度の取組：引き続き、ムリ・ムダ・ムラのない運搬をしエコドライブを心がけていく。

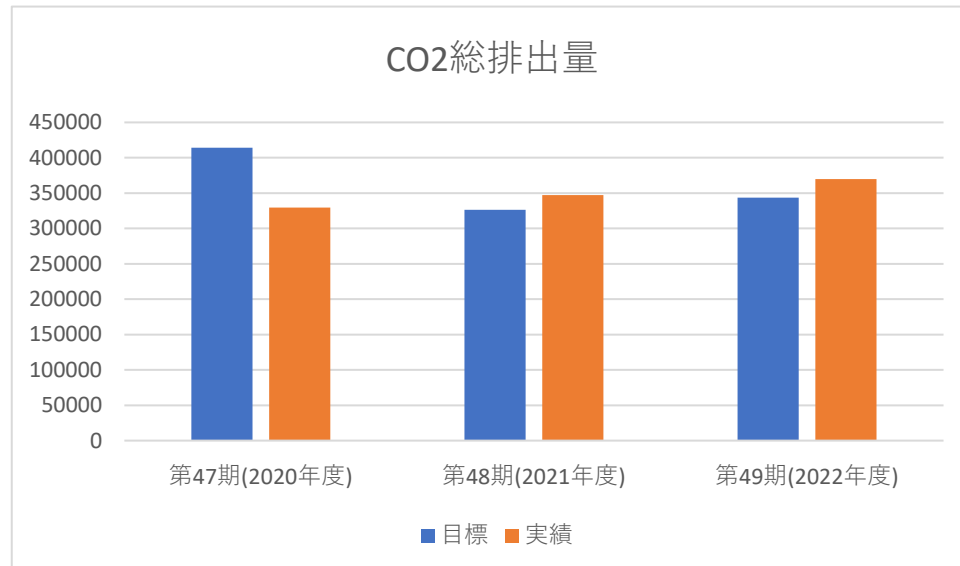
③ガス(LPG)によるCO₂排出量



○取組結果：昨年より微増という結果になった。製品数は減っているのに対して、増加がみられるので、無駄があったと思われる。

次年度の取組：ムダ使いをしないように社内で再度徹底していく。

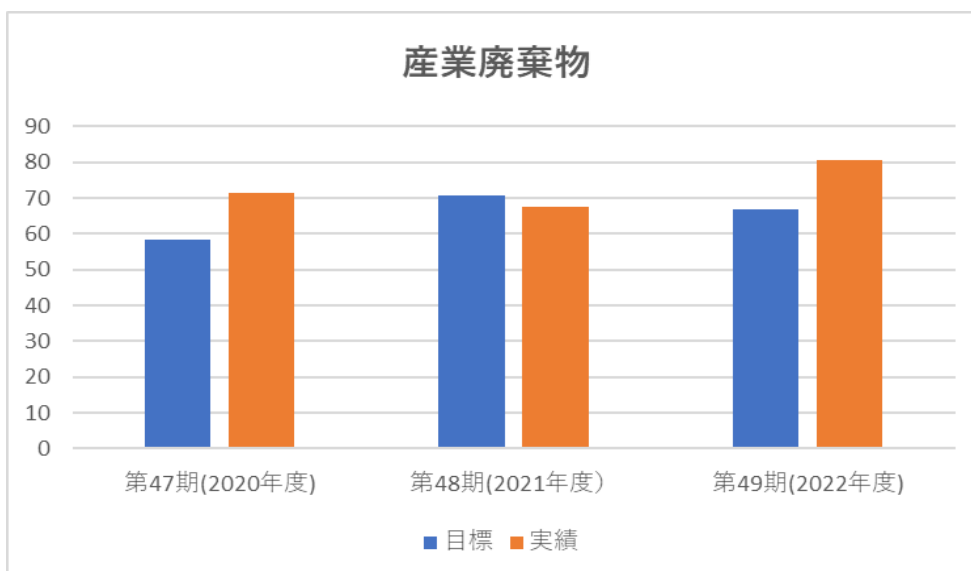
◆CO₂総排出量



○取組結果：電気による排出量が増えたことが影響し、総排出量も増えてしまう結果となった。

次年度の取組：売上や製品数が増えたとしても、排出量を可能な限り抑えられるように再度各部署等で見直しをしてもらう。

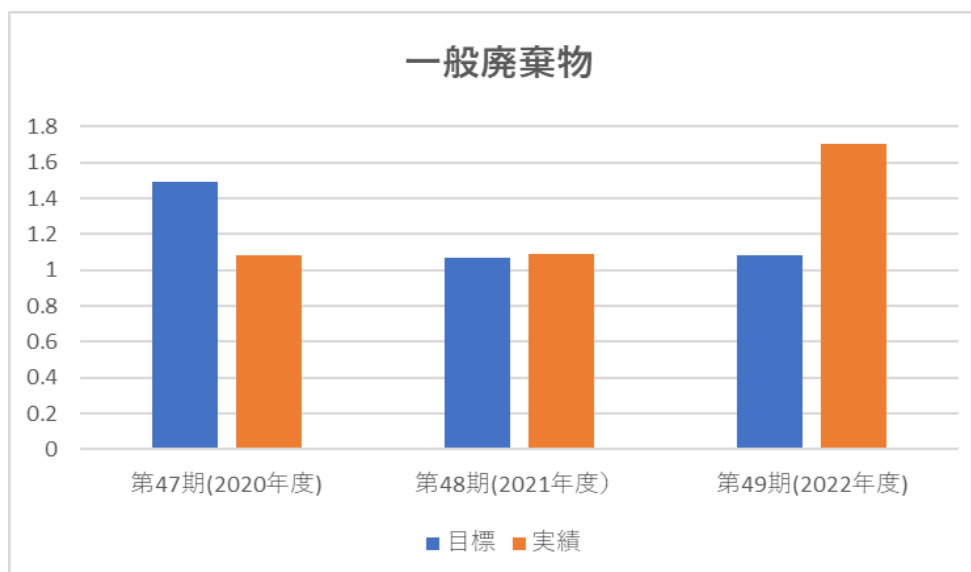
④産業廃棄物



○取組結果：産業廃棄物に関しては、目標未達という結果になった。今回から切粉も含めての値になっているため大幅に増加している数値になっている。アルミは削減することが出来た。廃材となったものの中で、リサイクル出来るものは積極的にリサイクルできることが出来た。

○次年度の取組：引続き、生産管理において無駄のない材料取りをし、現場においては不良を出さないようにチェックをしっかりと仕事をしていく。また、廃材になってしまった場合の分別もしっかり続けていく。

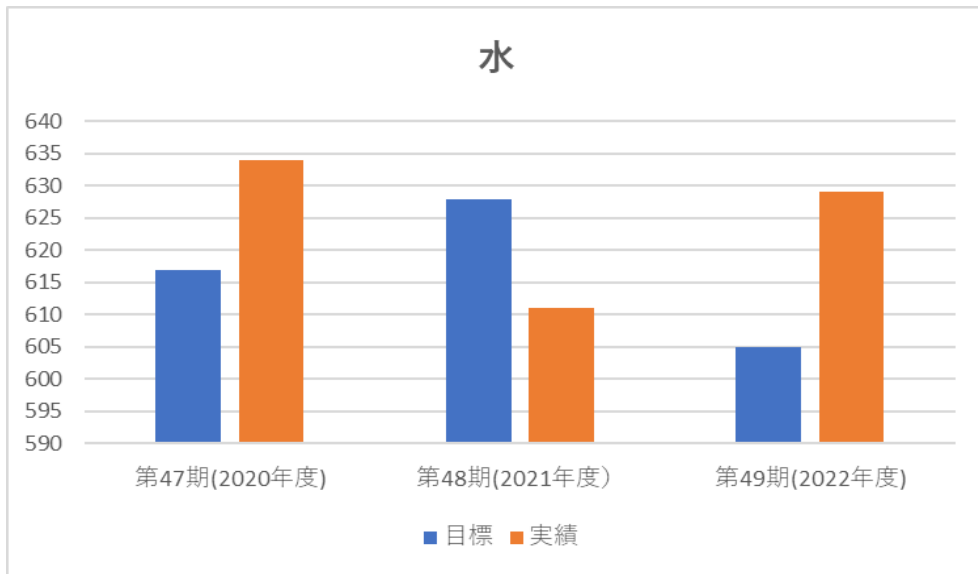
⑤一般廃棄物



○取組結果：一定期間の保存が求められている機密文書の処分の量が今期は大幅に増えてしまった。

○次年度の取組：電子保存でいいものに関しては、少しずつ電子保存に移行をし、段階的に紙での保存の量を減らしていけるような体制を作っていく。

⑥水



○取組結果：水使用量に関して、今期は新組立工場における建築中の際に使用した水の量も入っていることを考慮すると、前期と変わらないか削減できている数値が出ていると思う。感染症予防をしっかりとこの結果が出せているのはいい結果だと思われる。一人一人が少しずつでも無駄に水を使用しないことによる積み重ねの結果が現れていると思う。

○次年度の取組：引き続き節水を心がけていく。

6-2環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の取組

環境経営計画		取組の結果	評価	次年度の取組
エ ネ ル ギ ー	○電気			
	・電灯の節電、OA機器の電力削減に心がける	昼休憩中等消灯できていた	◎	継続していく
	・エアー漏れのチェックをする	定期的にチェックしていた	◎	継続していく
	・工場現場：夏季26℃ 冬季20℃ (検査室 夏季22℃ 冬季20℃)	設定の達成は出来た	◎	継続していく
	・事務所及び食堂 夏季28℃ 冬季20℃	事務所PCからの熱が多く中々設定どおりには出来ていなかった	○	社員の体調等も考慮し、適温を設定していく
	・エアコンのフィルター清掃など3カ月に1回点検を各部署において行う	行えた	◎	継続していく
	・毎月1日、10日、15日はノー残業デーとしているので、一斉退社を徹底	ほぼ出来ていた	○	一斉退社できるように強化していく
	○ガソリン、軽油			
	・社用車の暖機運転の禁止	暖機運転していなかった	◎	継続していく
	・不必要なアイドリングの禁止	出来た	◎	
	・車両の定期的な点検及び省エネ運転の実行	点検等しっかりできた	◎	
	・社用車の配車の工夫	徹底出来ていた	◎	
○灯油				
・冬季の早朝などストーブ使用時の温度設定のチェック ・担当が空調と併わせて管理を行う	管理出来た	◎	継続していく	
○ガス				
・コンロ及び瞬間湯沸かし器の効率の良い使用方法を工夫する	工夫できた	◎	継続していく	
・アルゴンガスについても効率の良い使用方法を工夫する	使用頻度が少なかった	◎	継続していく	
水	○上水道			
	・節水に努め環境マネジメントの向上を意識付けする	節水に努められた	◎	継続していく
	・切削油の管理を徹底し、入替え等が適切にできるようにする	管理の徹底ができた	◎	継続していく

	環境経営計画	取組の結果	評価	次年度の取組
廃棄物	○切粉（スチール、アルミ、ステンレス） ・各種金属の切粉が排出されるが、精度ある分別をしてリサイクルする	リサイクル出来た	◎	継続していく
	○紙 ・普通紙、雑誌、新聞、ダンボール紙などの分別を徹底する	分別の徹底が出来た	◎	継続していく
	○プラスチック ・リサイクル品なのでゴミとして出さぬように注意して分別する	リサイクル出来た	◎	継続していく
	○その他 ・アルミ缶、スチール缶、ペットボトルは自動販売機設置業者の管理である為、業者に迷惑の掛かるような行為は慎むこと	業者の方に迷惑の掛からないように分別出来ていた	◎	継続していく
	・使用後のエンドミルは、ハイス、超硬、チップに分別し、リサイクルに回す	分別し、リサイクル出来た	◎	継続していく
環境教育	・各担当者は常に環境意識を持ち、担当に関わる研修会に積極的に参加する	開催できなかった	△	感染症も落ち着いてきたので開催したい
	・各担当者は学び得た知識を有意義に発揮し全社に教育及び指導する	出来ていた	○	引き続き教育及び指導していく
	・各社員エコアクション21の目標を提示し、努力を促す	目標を提示し、達成に向けて努力が出来ていた	◎	目標を提示し、達成に向けて活動した
	・月初めの朝礼で再度各社員に節約の自覚を促す	促せた	○	継続していく
	・5S委員会を通し、他社の見学及び活動を社員に紹介し、環境意識を強める	感染症予防の為、他社の見学は出来なかった	○	部署毎に情報共有することを大切にしていきたい
グリーン調達（グリーン）	・購入品はグリーン化された商品を優先して購入する	可能な範囲で購入出来ていた	○	継続していく
	・消耗品はリサイクル品またはリサイクル化される物を優先して購入	可能な範囲で出来ていた	○	継続していく
	・生産管理及び製造工程で素材のムダ、工程のムダ等を考え、環境を意識した製造方法を推進する	ムダのないように工夫できた	◎	継続していく

7.実績と次年度目標

						次年度目標
内容	項目	第46期(2019年度)	第47期(2020年度)	第48期(2021年度)	第49期(2022年度)	第50期(2023年度)
電力による CO2排出量	目標	392131	364619	277518	300842	325844
	実績	368302	280321	303881	329135	
	評価	○	○	×	×	
自動車燃料による CO ₂ 排出量	目標	56033	55002	47983	42152	39947
	実績	55558	48468	42578	40351	
	評価	○	○	○	○	
ガス(LPG)による CO ₂ 排出量	目標	377	442	550	525	527
	実績	150	556	530	532	
	評価	○	×	○	×	
ガス(LNG)による CO ₂ 排出量	目標	42	0	0	0	0
	実績	0	0	0	0	
	評価	○				
上記CO ₂ 排出 量合計	目標	448583	420063	326051	343520	366318
	実績	424010	329345	346989	370018	
	評価	○	○	×	×	
産業廃棄物	目標	89	58.2	70.6	66.8	79.8
	実績	59	71.4	67.4	80.6	
	評価	○	×	○	×	
一般廃棄物	目標	1.38	1.49	1.07	1.08	1.68
	実績	1.51	1.08	1.09	1.7	
	評価	×	○	×	×	
水	目標	620	617	628	605	623
	実績	623	634	611	629	
	評価	×	×	○	×	

8.環境関連法規等の遵守状況の確認、評価の結果並びに違反、訴訟の有無

(1)当社に適用される環境関連法規

法令等の名称	項目	文書・記録	確認
環境基本法	事業者の責務		○
循環型社会形成推進基本法	事業者の責務		○
グリーン購入法	事業者の責務		○
廃棄物処理法	廃棄物運搬・処分の委託契約 マニフェストの交付	収集運搬及び処分業者の許可証の確認	○
		交付義務	○
		回収・照合(発行後B2・D票90日、E票180日以内)	○
		A票・B2・D・E票 5年間保存	○
		上記各票の送付期限日までに送付されない場合は適切な処置を講じ30日以内に県知事に報告	○
	管理票交付状況の報告	○	
騒音・振動規制法	指定地域内での特定建設作業	設置または変更は30日前に市町村長に届け出	○
特定家庭用機器再商品化法	排出する場合、業者に適切に引き渡し		○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の所有者の義務		○
労働安全衛生法	従業員の労働安全と健康保持		○
消防法・火災予防例	指定数量未満の危険物の貯蔵・取扱い		○
フロン排出抑制法	機器所有者によるフロン漏洩点検	3カ月に1回以上簡易点検 点検・整備の記録	○

○遵守状況の確認及び評価の結果

- ・担当者が中心となり遵守状況についてチェックを行っている。
- ・消防法等に関しては、長野県パトロールと委託契約しており、定期的に点検及び確認を行っている。
- ・電機に関しては、中部電気保安協会に委託し、月1回の点検を行っている
- ・エアコンフィルター及び室外機は、3カ月に1回担当者が確認し、点検表にて管理している。
- ・問題及び関係当局より違反の指摘は過去3年間うけておりません。

○違反、訴訟の有無

・法規の違反及び訴訟等は、創業から現在まで1件もなく、近隣住民からのクレームなども1件もない。そして、毎年1年に1回地元の区長さんに会い、問題があるようなら連絡を頂ける関係を築いている。

また、環境レポートは誰でも見れるようにしてある。

9.教育・訓練実施結果及び概要

1) 2022年2月1日 BCP講習（全社員対象）

講師	BCP推進チーム 室長 南澤
内容	BCPとは何か、 BCPフローチャート説明 火災発生時（救急）の対応と連絡網の確認 NTT災害ダイヤル活用の説明及び災害対策携行カードの説明
結果	各自災害対策携行カードで災害時の生存確認の仕方、火災時の避難経路の再確認することができた。

10.代表者による全体評価と見直し・指示

2022年12月19日

代表取締役社長 南澤文明

本年度はここ数年続いているコロナ感染症の影響を受け、取引先及び社内での感染者等の欠勤で現場において仕事の進捗に影響が出てしまった。またウクライナとロシアの紛争の影響で、部材の高騰及び納入に支障が出た。為替相場でも急激な円安に振れ経済は混乱した年度となった。そんな状況下の中、効率よく無駄のない作業を呼びかけ対応を図った。また組立工場の増築をし将来に向けて大きな設備投資を行った。経済は厳しい状況であったが、前向きな姿勢と半導体不足及び自動車のEV化に向けての動きに同調でき、結果として経営面では良い結果となった。

E A 2 1の結果としてCO₂排出量の目標は達成できない結果となった。要因として電気使用量の増加が一番の要因である。長時間の加工品が増加し機械の稼働時間が増え、その稼働時間に合わせてエアコンの稼働時間が増えた影響と思われる。少量多品種で都度オーダー品の制作となり、目標設定は難しい所ではあるがCO₂排出量を削減するべく努力し実行していく。

1. エネルギー投入量

売上が上がり生産数が下がり反比例した内容であるが、製品の付加価値が高いものが多く加工時間が増加した事により電気使用量が増加した結果となった。自動車燃料は効率的な運用により削減でき目標をクリアできた。取引先と納品形態を相談し改善出来た効果も見られた。次年度は増築した組立工場の屋根にソーラー発電を設置しソーラー発電の電気使用量も増える事が見込め、エコ活動に適応した内容となる。現状に甘えることなく更なる向上を目指す。

2. 水資源使用量

結果として使用量が目標に対して達成できなかったが、新工場建設に伴い工事初期に工事用に水を使用した事による影響が結果として使用量増加になった。この事案を元に考察すると、実際の業務に係る所の使用量は削減できたのではないかと思われる。しかし次年度は新工場での使用量を考えると増加が見込まれる。注意して使用量を把握する必要がある。

3. 廃棄物

受注内容により増減し予測し難い状況であるが、結果として増加した結果となった。常に無駄の無い加工工程とムダの無い製品梱包をし、削減できるように努める。

4. 環境教育

昨今SDGsが話題になる事が増えたように思う。当社もSDGs活動をしており環境意識が高まったと感じられる。EA21活動を主に5S活動・勉強会・チャレンジ20と合わせCO₂排出量削減を意識し、ムダを無くし日々の仕事に反映させる。5S発表会・勉強会発表会時にEA21活動と関連性が高い事を指導し、それぞれの活動が向上するように実行する。

5. グリーン化

ECO商品を前向きに使用するよう心掛けているが、経費及び使用状況ですべてをECO商品にすることは難しいが、ECO商品に注力し購入時に再度検討するようにする。

新工場の屋根に2023年度中にソーラー発電が設備される。より一層自然エネルギーを使用しCO₂削減に努める。

6. 総括

CO₂総排出量が増加となり残念な結果となった。しかし内容的には致し方ない状況もあり、努力したが結果が伴わなかった内容である。次年度は新工場が稼働しエネルギー使用量も増す環境になる。新しい環境はスタートが大事であり初期段階でECOを意識した業務としてほしい。受注状況が活発で新工場も稼働し中途入社および新卒入社で社員の増加が発生する。環境教育をしっかり行い環境意識を持った業務になるよう努める。

7. 指示

地球温暖化（CO₂排出量の増加）が心配される状況である。東南アジアの経済環境が向上し世界的に温暖化が進行している。自動車のEV化も温暖化を抑えるべくして改革される事案である。次代の未来をいい環境に残すためにも再度環境改善を意識し、ムダ・ムリ・ムラを無くすことによってエネルギーの削減をする。その環境意識の向上が未来を良くし、また会社の利益に繋がり自身に返ってくることを理解し、EA21活動が活発になる様に努める。EA21・SDGsを推進し次代の人々の為にCO₂排出量を削減し努めよう。